

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

サンバード茶屋町

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成15年12月に設立し、4年間余りの変遷を経て今日に至っている。丁度、外部評価制度が発足し、私共の機関も当初から、このホームの外部評価に関わらせて貰っている。

このホームに一貫しているのは、利用者の良いところを引き出して、それぞれの得意技をしっかりと発揮させている事だろう。個人技は、その人なりに好きようにさせてあげる。集団で生活し、その中で役立って貰う事をして貰い、その人の生き甲斐を感じてもらっている。

これまで、「ホームの発明家エジソンさん」「大輪の菊作りに励む人」「白菜の漬物をつける人」「刺し子に夢中になっている人」「氷川きよしの大ファン」「ちぎり絵や折り紙をする人」等、それぞれの人の能力を活かして、具体的な行動をしてきた。二年三年と利用者の高齢化が進んだり、認知症の症状が進んでいき、あるいは病気で入院して、その活発さは衰えも見せているが、4年目の今日を見ていると、未だその人達の取り組みは続いている。そして新たにちぎり絵に目覚めた人達が立派な作品を月々残している。このホームの新しい顔が現れた。

又、長老とも言える高齢者も、朝起きるとリビングルームをモップ掛けて掃除をしたり、食卓を拭いたり、配膳を手伝って、家事を率先して自分の仕事をしている。家族もその元気に驚きと喜びを表現しているようだ。

このように、利用者の得意な事を伸ばして実力を発揮して貰ったり、新たな得意技を発掘したりして、その人の生き甲斐を支援していることが、このグループホームの特徴と言える。職員が強制する事は一切無く、利用者のやる気を起こすきっかけ作りをしていく、つまり利用者のそれぞれの人の「自分らしさ」を発揮した生活を支援している。この考え方、ケアの仕方は今も変わっていない。

2つのユニットを一人の管理者でマネージメントを行い、それぞれのユニットにリーダーを置いて日常の運営をするよう今年度から変わった。利用者の状態が変化したり、入れ替わったりしていく中で、「本人の希望を入れて個々を大切にしながら、今の利用者18人で何でも言える家族を作りたい」と管理者の言う言葉が、このホームの変わらぬ姿を物語っている。新しい体制が利用者や家族に安心感を与え、地域と密着した認知症ケアの拠点として定着していく、地域社会の発展に貢献するホームの姿に期待を寄せて行きたい。

特に改善の余地があると思われる点

(特に今後、期待したいと思われる点)

このホームの特長の一つとして、徹底した口腔ケアと手洗いの励行を3年間に亘って続けてきた結果、担当医師も驚く程この3年間誰も風邪をひかなかったという実績を積まれた。このようにケア項目を月々、年々と具体的に取り上げて実行していくことにより、すごい効果を生み出す事ができそうだ。生活行動の中の一要素、健康管理面や排泄等、それぞれの人に合った項目と目標を決めてケアプランの中に反映していくとより効果が大きいと思う。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念は、職員全員で検討した結果、ホームのケアとサービスに密着したものに改善したもので、この理念を日々実現していく事が、これからの課題であり、ホームの現実の姿で納得出来る。</p> <p>2、全体的に見て…：“想いを聞ける、感じ取れる関係、過去・現在・これからと継続性のある明るく穏やかな生活への援助”を理念としてあげている。利用者一人ひとりの要望や希望に応えていくよう心掛け、それぞれの利用者を大切にしていける為に、利用者からじっくり話を聞くよう職員に言っているようだ。利用者も自分だけに関わってくれた事を実感し、喜んでくれ、職員を労わる気持ちを感じるようだ。このホームの様子を見ていると、認知症ケアの常識を実際の生活の中に浸透させている事がよく分かる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ゆったりとした内部空間と広い土地に建つ外部空間があり、利用者は内外空間を上手く活用して生活しているので、改善項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…：2つのユニットは、玄関側は両玄関を繋ぐ廊下で繋がり、ユニットのリビングルームを繋ぐ広いウッドデッキで繋がっている。全体として口の字に空間が広がり、中庭も広く、ウッドデッキから入れる。ウッドデッキは屋根付きで全天候型になっており、洗濯物を干す広いスペースがあり、喫煙スペースで煙草を吸いながら団欒も出来る。この広い空間を管理者・職員は行き来して交流しているし、それに伴って利用者の交流も18人が行っている。又それぞれの利用者の作品も両ユニットに展示され、2つのユニットの人間の交わりを全空間で見ることが出来る。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者一人ひとりの“自分らしさ”を發揮させて、それぞれの得意な事、好きな事、したい事を生活の中で実際にしてもらっている。又生活の場で、動ける殆どの方が家事へも参加して、調理、掃除、洗濯の役割を果たして、生活をしている。ケアの上で申し分ないが、一つひとつのケアをもっと向上していこうと意欲を示す職員の姿を見る事が出来た。</p> <p>2、全体的に見て…：管理者・職員は、利用者一人ひとりにきちんと向き合い、いつでもその人の気持ちを聞いてあげる姿勢がある。「ちょっと話があるんじゃない」と利用者から言ってくる事も多い。「出来るだけ思いは溜め込まないで、いつでも聞くよ」というメッセージは利用者の心に届いているようだ。「現場を大切に」とする職員達の心は、利用者へ何時も向き合い、心が通い合える事を実現する為の時間と姿勢を作っている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域との交流の機会に活かしているが、更にこの会議を通じて、地域との連携や交流を深めていこうと考えている。又、災害時には近所の人々の協力が得られるよう日頃からの付き合いも深めていこうとする働きかけを考えている。一つずつのきっかけ作りの積み重ねが、新しい交流を広げていく事になるので、今後の活動が期待出来る。</p> <p>2、全体的に見て…：今年度から、2つのユニットを一人の管理者でマネジメントを行い、各々のユニットリーダーを配して、職員との意思疎通を計る体制となった。それに計画作成担当者も加わり、2つのユニットの職員と利用者が、1つのホームの住人となって交流を深め、生活出来るようになってきた事は、新しい展開で、利用者が人間として豊かになり、より良い人生が送れる場を形成していけるようになった。</p>		